

様式 4

<p style="text-align: center;">令和 5 年度第 7 回 富士見市社会教育委員会議 議事録</p>						
日 時	令和 6 年 1 月 2 4 日 (水)		開会	午後 7 時 0 0 分		
			閉会	午後 8 時 4 5 分		
場 所	富士見市立中央図書館 2 階 視聴覚ホール					
出席者	委 員	本田議長	渡邊副議長	蘇武委員	内海委員	秋元委員
		○	○	○	○	○
		小栗委員	関野委員	戸田委員	八木橋委員	深瀬委員
		○	○	○	○	○
	事務局	生涯学習課 主任				
公 開 ・ 非 公 開	公開 (傍聴者 0 人)					
議 題	<p>1 あいさつ</p> <p>2 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 3 4 期のテーマ決定に向けて <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各会議への参加報告 					

議 事 内 容

1 あいさつ

2 協議事項

・第34期のテーマ決定に向けて

【議 長】 前回までの会議について、富士見市の社会教育の強みと弱みについて各委員より意見を出していただいた。今日はその最終確認をしたい。また前々回の会議でまとめた理想の姿と照らし合わせて、どこにフォーカスしていくか考えていきたい。前回出していただいた強みと弱みについてまとめた資料を配布している。類似しているもの、近しいものをまとめ、ラベリングしている。強みとしては、豊富な取り組みや子育て支援、地域資源などが挙げられた。一方で弱みとして、地域への関心や地域間格差、参加者の固定化・高齢化が挙げられた。このまとめ方について、なにか意見のある方はいるか。

【委 員】 特になし。

【議 長】 前々回の会議でまとめた理想の姿についても資料として配布している。参加しやすいこと、活動の状態が良好であること、多様性や相互が尊重されていることなどが挙げられていた。この理想の姿と強み・弱みを照らし合わせて、さらに伸ばしたい強み、補いたい弱みなど、各委員より自由な意見をいただきたい。

【委 員】 「活動しやすさ」はとても重要だと考えている。自身の活動等を省みながらの話になる。他の団体や行政とコラボをすると、やはりぶつかり合うこともある。しかし一人ひとりの視点を出し合うことが大切であり、ぶつかり合うことも大事なことなのだと思う。行政職員や社会教育士などの人が、活動する上で戸惑っている市民に対して様々な観点を与えてくれたり、分断している活動をうまくまとめてくれたりするとよい。「情報発信」などももちろん必要だと思うが、人が集まった時に一人ひとりが対話し互いの意見に耳を傾けることが大切だと教え気付かせてくれる人の存在があってほしいと思う。活動を支えてくれる人・組織があるとよい。

【議 長】 気持ちよく活動し続けられるようサポートしてくれる存在があるとよい、という解釈でよいか。

【委 員】 最初は大変でも続ければ慣れる。続けることが大切でありサポートし目配りしてくれる人がいると良いのではないかと思う。

【議 長】 集団の発展過程として、最初は遠慮しあっても、段々それがなくなり、葛藤が発生する。それを経てうまく融合されていくと良い関係になるが、葛藤の段階で離れてしまう人もいる。離れないよう、場をうまくまとめ繋いでくれる人がいるとよい。活動しやすい状態を維持し続ける、メンテナンスを続ける人・機能があるとよい、という話だった。

【委員】 私は地域愛がとても重要だと考えている。自分たちの地域の良さを知り、地域を大切にしていこうという気持ちを持つことで、人とのつながりも生まれてくる。誰かにやってもらうのではなく、自分たちの地域のことは、自分たちみんなで作るんだ、という主体的な力が出てくる。また人がつながっていれば、情報も共有できる。人と人とのつながりは大切だと考えている。また強み、弱みを見た時に、富士見市は強みが多い。しかし関心のある人とない人と、やはり差があると思う。無関心な人にも関心を持ってもらえるよう、活動を広げていくことを大事にしていけたらよいのではないか。

【議長】 積極的な人とそうでない人を分ける動機的なものがあるのではないか、それは地域愛に関係するのではないか、という解釈でよいか。

【委員】 地域愛がすべてだとは思わないが、地域愛があるということはすてきなことではないかと思う。昔から地域愛を持つ地域もあれば、一方で新しく開発された地域などは地域愛を持つのは難しいのかもしれない。その差をどうしたらよいか。

【議長】 どうしたらよいかは、これから考えていければ。主体性につながるものでもあるから、地域愛や人とのつながりは大事であり、着目したい、という意見と解釈する。

【委員】 富士見市の社会教育全体を見た時に、十分とまでは言えないかもしれないが、取り組みも多く、それなりではないかと感じている。もちろん弱みもあると思う。私は市民学芸員をやっており、去年千葉県国指定史跡加曽利貝塚へ見学に行った。そこにいる説明員の方のレベルがとても高く、ボランティアであっても高い意識を持っていらっしゃるのだと感じた。外を見たことで自分たちのことも見えた気がしており、やはり、現状に満足せず、レベルアップを目指してスキルの向上を図ることが必要であると感じた。富士見市の社会教育を見た時に、数もあるし質も悪くないと思うが、そこから更にレベルアップさせるにはどうしたらいいか、そういったことを考えられたらと考えている。

【議長】 不断の努力が必要だという話だった。他を見るというのは確かに大切なことだと思う。

【委員】 8月の定例会議にて事務局より配布された資料を確認した。過去のテーマを見た時に、地域や子ども、人をつなぐということが共通していると感じた。また事務局でまとめた国や県におけるキーワードを見ると、Well-beingの実現や、持続可能な社会の創り手の育成などが挙げられている。また子どもを通してVUCAという考え方を知った。先行き不透明で将来の予測が困難な時代においても、動じず、強い心を持つことができる子どもを育てる環境が作れたらと考えている。大人が人とつながっていれば、その背中をみた子どもも安心して人とつながることができる。社会教育委員としてテーマを決めるにあたっては、やはり地域とのつながりといった視点は大事なのではないかと考えている。

【議長】 予測が困難なのであれば、普遍的なテーマを扱った方が良いのでは、

普遍的なテーマとは、地域とのつながりではないか、という意見と解釈する。

【委員】 不確実性に対応するためには、計画などを決め過ぎてしまっては難しい。フラットな関係が大切だと言われている。みんなで対話しながら進めていくことが大切。物事がどうなるか分からない、一人ひとり見える範囲は違っており、みんなで協力することが必要、そのためには対話が必要で、なんでも言い合えるフラットな関係が大切だ、という考え方。

【議長】 システムの世界などでは、アジャイルという考え方が主流となってきた。PDCAサイクルという考え方があるが、それも古いと言われている。とにかく素早く回す、という考え方が主流となっている。この考え方は、市民活動の考え方と親和性が高いのではないかと思う。市民活動は緩やかな部分もあり、時流とは合っているのではと感じる。

【委員】 委員より地域愛というキーワードを提示いただいている。その中で富士見市の中に地域差があるという話があった。具体的にどこどここの間に差があるのか。

【委員】 田んぼのある地域は、協力しないとやっていけないという背景がある。人の好き嫌いを言っていると生活できないので、「そういう人」とそのまま受け止めて、みんなで協力してやっていくという地域性。大人がそうであれば、子ども達も同じような雰囲気を持っているという印象がある。一方で農業をやっていた地域の中に新しく住宅ができ、新旧の住民が混ざっている地域もあれば、まったく新しく住宅やマンションが立ち並んだ地域もある。新しい地域は、つながりを新しく築かなければならず、それは難しいこと。富士見市は地域性がある。どこが良い悪い、という話ではないが、地域ごとに違いが大きく、一律でこうしよう、ということは難しいのではないかと思う。

【委員】 地域愛がある地域とない地域、その違いは何か。地域愛を持つ地域の、その理由が分かれば、ない地域でも地域愛を育むヒントになるのではないか。委員からも話があったが、違いがあることでぶつかり合いを生み、それが理解し合う機会になれば良いと思う。様々な人がうまく混ざり合って、何かが生み出されるのではないか。

【委員】 ご指摘の通りと考える。違った文化がぶつかり合うことで新しい文化が生まれる。私が住んでいる地域は、まともにはあるが、地域の中で完結してしまっている印象があった。市民文化会館ができた時も、近くにもかかわらずあまり活用されていなかった。そこで考えられたのが収穫祭やサーカスバザールといった、文化と農業とのコラボレーション。商業と農業、そして文化が混ざり合っていると、新しい良さが生まれる。

【委員】 一つひとつのコミュニティに良さがあり、しかしその中で閉じるのではなく、開かれたものになると良いというお話だったかと思う。

【委員】 市民が積極的に楽しみながら活動できることがいいのではないか。

世代に関係なく、子どもから高齢者まで一緒に活動できる場があると良いのではないかと思った。公民館や交流センターでの活動に参加して思うのは、参加している方が特定の方だということ。情報を得られていないから参加しないのか、興味があるものではないのか、どちらが理由かは分からない。PRのやり方も含めて間口が狭いのではないか。なにか富士見市独自の、みんなが楽しめる何かがあるといいのではないか。水子貝塚や難波田城など、あるものをうまく活用して、みんなでPRしてみんなで楽しむ、そういう何かがあるとよいのではないか。

【議長】 色々な取り組みがあるが、狭い範囲でとどまってしまっており、もったいない。多くの人に活動が広がるよう工夫できればいいのではないか。

【委員】 講演会や講習会なども、内容としてはとてもいいことをやっている。もっと多くの人に参加してもらえたら。

【委員】 人とのつながりや郷土愛がキーワードとして出てくる雰囲気があるのは良いことだと思う。一方でこれから人は減り、伝統文化的なもの、例えば難波田城資料館などもどんどん古くなっていく。関心が高ければ、そういったものを残していこうという機運になる。関心を持ってもらうにはどうしたらよいか。農業や伝統文化などの世界では、ICTが入ってきている。そうになると、地域性とは一体なのか。人と人とが足を運んで顔を合わせて、つながる場や機会があるといいのではないか。顔を合わせるからこそ、人の多面性、色々な人がいるのだということが分かるのではないだろうか。

【議長】 ICTなど色々なものがあるからこそ、拠り所が大事で、自分だったり、自分の周辺の地域だったり为抓手している必要があるのではないかと思う。

【委員】 自分の気が向いたときに、自分が係われる時間の中で、自分が楽しめること、まずはそれが大事なのだと思う。その中で、そこに集った人たちが楽しさを共有できたらそれでいいのではないか。一度築いたつながりを、永久に維持しなければいけないと感じてしまうと、とても窮屈。それは恐れにつながり、新しい出会いを躊躇することにつながってしまう。それぞれに、気が向いて足を運んでみようと思えるような場があって、しかし参加するかどうかはその人自身の自由で、参加しても都合のいいところで退出できる、そんな企画や器ができれば。ただ、色々な人がいるので、それを許せない人もいる。コーディネーターのような人にうまく整理してもらうことが必要なのか、市が安心して参加してもらえるよう働きかけるのか。いずれにしても、枠組みが強すぎると手詰まりになってしまう。様々な活動やイベントに参加するが、子どもがいると雰囲気が明るい。子どもがいないと盛り上がりがないといった声も聞いたことがある。子どもも大人も一緒に楽しめる機会が多くあると良いのではと考えている。そうした中で、自然と大人から子どもへと引き継がれていくようなものもあるだろうし、そこで楽しかったと思えば、自分

が大人になった時に下の子たちにつないでいく。お祭りでもなんでもいいが、そういった接点となりうるところは大切にしていきたい。子どもに参加してほしいと思うのであれば、その親が連れて行こうと思える場にする必要がある。様々な価値観を持っている保護者の人たちに、ゆるやかにつながってもいいかなと思ってもらえる安心感は、どうやって用意したらいいか。気軽に門戸を開いている活動ばかりではない。いかにしてそこの折り合いをつけていくか。

【議長】 自由さ、ハードルの低さといった観点からのお話だったかと思う。集まりをつくる上で子どもがキーとなることもあるが、そこに親世代を連れてくるにはどうしたらよいか。

【委員】 入間地区社会教育協議会で開催された社会教育委員研修会に参加した。講師の方は、お泊り会を開催しているとのことだった。「なんにもしない合宿」という名前で、10年以上続いているとのことだった。人付き合いを面倒くさがらない子どもに育てくれたという話があった。また一人で子どもを育てている人に、子どもから離れることができる時間と場所を提供し、そういった層に社会教育がマッチしたという話もあった。また活動に参加していた子が中高生になって小学生の面倒を見てくれるなど、良い循環が生まれているとのことだった。

【委員】 社会教育委員研修会には私も参加した。私も色々な行事に参加していて思ったのは、次の地域や組織を引き継いでいくような子どもたちを育てないと、つぶれていってしまうということ。富士見市は地理的にはやはり便利な地域。逆に便利だから住んでいて、不便を感じたら引っ越していってしまう人もいる。研修会で講師の方は特に中学生と仰っていたが、子どもの内から大人が活動しているところに入り、コミュニケーションをとっていると、人付き合いを厭わない大人になる。どの組織、団体でも担い手がいなくなっており、行事の縮小削減、最終的にはPTAを廃止、という話にもなる。次世代の担い手を育てていかないと、富士見市が良い立地にあるとはいえ、組織としては成り立たなくなってしまうのだと感じている。また昔から住んでいる住民と新しく越してきた住民の意見の違いについて、話を聞いたことがある。地元を良くしよう、お祭りなども大切にしようとしても、新しく越してきた人たちには理解してもらえないのだそう。バランスが難しいと思った。

【委員】 昔から住んでいる人と、新しく越してきた人たちについて、私もずっと考えていた。子どもを真ん中にしたら、子どもを健やかに育てようという大人の気持ちは同じだから、年数は関係なく大人を緩やかにつなげてくれるのではないかと考えている。子どもが真ん中にいると、大人は嬉しい顔をして係わってくれる。地域で餅つき交流会を開催したが、新しく越してきた家庭も親子で参加してくれた。当日の様子をみていると、やはり人と人とが顔を合わせる機会というのは大事だと感じた。私は地域子ども教室にも係わっているが、やっていることは、自由に遊べる場の提供。受付や見守りのスタッ

フも募集している。役割があると、一生懸命楽しんで参加してくれている。毎回参加しているとお互いの顔と名前が分かる。そうになると、違う場所で会った時にとっても嬉しそうな顔をしている。どこかで会った時に「あの人知ってる」という関係は大切だと思う。子ども教室で、大人と子どもが会える時間を作っている。大人は意外と子どもと触れ合う機会がない。子ども達と一緒に楽しく過ごせる時間があると、大人にとってもいいのではないかと思う。

【委員】 昔は土曜日でも学校があった。土曜日は大人も早く帰ってきて、地域のことをする時間が多かった。ハードルが高いかもかもしれないが、例えば土曜日は地域の人も学校に行き交る、というような仕組みもいいのかもしれない。

【委員】 今の子どもは土日も習い事等で忙しい。それもあり、うちの地域では子ども教室を平日の月曜日に開催している。

【委員】 私の地域では土曜日に開催している。学校もいつも協力してくれており、子どもも100人近く参加してくれている。スタッフも毎回30人近く集まる。

【委員】 うちの地域では、当日は20人くらいの方にお手伝いいただきながら開催している。100人くらいの子も達が参加してくれている。地域の方や保護者に手伝ってもらっているが、「しなければならない」ことはなく、子ども達を見守ってもらいながら、楽しく遊んでもらっている。

【委員】 何年くらいやっている活動なのか。

【事務局】 富士見市内で一番最初に始まったのは平成17年。そこから徐々に活動を広げていった。委員が携わっている南畑は平成18年、つるせ台は平成21年から活動していただいている。現在は活動を休止している小学校区もあるが、全ての小学校区で子ども教室を開始した。

【委員】 市によってはNPO団体などに委託して子ども教室を運営しているところもある中で、富士見市は全ての小学校区で子ども教室をやろうと当時の担当職員がはたらきかけてくれた。全小学校区にあるということは、子どもたち全員が歩いて行ける場所に地域子ども教室があるということ。それはすごく大事なことだと考えている。

【委員】 穿った見方をしてしまうと、10年以上活動している中で、人のつながりが増えていないというのは、なにか課題があるのではないかと感じてしまう。

【委員】 そこは難しいところ。教室によっては世代交代がうまくいかないところもあったかもしれない。そこがうまくいけばいいのではないか。

【委員】 中学生は参加するのか。

【委員】 中学生の参加は開催時間的にも難しいのではないか。

【委員】 先程委員から話があったが、社会教育委員研修会で講師の方は、中学生が大事だということを仰っていた。人とのつながりを自覚して学んでいくのだという話だった。

【委員】 地区体育祭などにはボランティアとして参加してくれている。

- 【委員】 中学生や高校生も、できる範囲で地域に顔を出してくれている。防災訓練に協力してくれている地域もある。
- 【委員】 人とつながることを面倒だと思わない子を育てるというのは、大事な感覚だと思った。関心が高ければなくなることはないという話があった。また最近の子ども達は、大人はみんなマスクをしており、目元だけで表情などを判断してしまっているのではないかと感じている。児童館でも、子どもの言語や歩行の発達の遅れについての相談が多い。やはりコロナによる影響があるのだろうか。
- 【議長】 子どもがキーではないかという意見をいただいた。
- 【委員】 みなさんの話を伺っていて、参加者の固定化・高齢化や担い手の不足、育成不足などが、関心の高いところなのだと感じた。富士見市の社会教育を考えた時に、その点が解決されないと、どういう形になるにしろ、持続可能なものにはならず、この点にフォーカスを当てる必要があるのではと感じた。第33期でも話題になったが、活動に係っていく中で、一度参加するとやめられないのではという恐怖感により躊躇してしまうということがあると、もったいない。参加しやすさ、出入りのしやすさ、人との距離感、そういったところを意識した形で、旧来の形に固執せず、新しい形を模索しデザインを変えていきながら活動していくということも、意識できるようにしないといけないのではないか。
- 【議長】 子どもを核にして大人もつながる、地域もつながる、という考え方には共感できる。地域の大人が子どもに係ると、知らない大人が、知っている大人になる。地域愛とまで言うと大きくなってしまいが、地域の中で、お互いが知っている関係になるのは、とても大切なことではないかと思う。そこに居場所があること、自分の存在がちゃんと認められていること。それをどうやって作っていくか。子どもが一つの核になるだろうし、みなさんも仰っていたが、親世代をいかに巻き込むか、そういった観点も考えられるかと思う。ハードルが低く入りやすい入口、これまで係われなかった人たちが係わることができる、係わったら居心地よくしてもらえる、そんな場づくりができるかというのではないか。子どもに関するテーマをこれまで扱ってきているが、子どもに固執するよりも、親世代、20代30代の大人に係わってもらおう仕掛け、そういったことを考えられたら。
- 【委員】 外国人を中心にするのも一つの考えではないか。違う層が集まってくるので、様々な人が集まる場をつくる仕掛けの一つとして考えられる。色々な人が集まるというのは大事なことはないか。
- 【委員】 富士見市には大学がない。三芳町にある大学の学生が、富士見市の事業に参加してくれたという話が以前の会議であったと思う。色々な大学や高校、中学校の生徒といった、小さい子どもではない、子どもと大人の間層を巻き込む仕掛けが欲しい。新しい人を引き込める仕組みがあると、何か変わってくるのではないか。
- 【委員】 災害が起こった時のことを考えても、富士見市は昼夜間人口比率が高いため、日中に災害が起こった場合は、中学生に頑張ってもらおう

必要が出てくる。防災の観点からも、中学生や高校生、大学生といった世代を巻き込むことは大切。

【議長】 地域に知っている人がいて、その地域が好きだから地域の活動を一生懸命できるのだと思う。中学生を巻き込むにしても、頼まれたからやる、というのは少し違う。もっと根幹の部分が大事なのではないか。

【委員】 中学生自身に、自分たちに何ができるか考えてもらうことも大切ではないか。

【委員】 町会役員の子世代が役員になるという話を聞いたことがない。うちの町会役員の子どもは30代後半。また役員の方は70代が中心。私は50代だが、間がない。急に担い手というバトンを渡されても、今までのようには行かないな、という感覚。誰か一人でも欠けるとどうになってしまうのか、不安があるが、だからと言って役員のお子さんが参加する、という話はない。

【議長】 現役で働いている世代であり、難しいのかもしれない。できる範囲で関わっているのではないか。

【委員】 役員は引き受けないのではないだろうか。PTAなどでは、親が「大変だ」と家でずっと言っている。そうすると子どももPTAに嫌な気持ちを持つ。町会も同じではないか。小学生の頃、母がPTA役員をしていたが、私もPTAに対して良い思いはなく、絶対に役員はやらないと考えていた。一度やってみると、それなりに楽しかったので続けたが、やはり最初は嫌だと思っていた。

【委員】 知り合いの町会長の方に、なぜ町会長を引き受けたのか話を伺ったことがある。その方は、親がやっていたから、やるものだと思っていたと仰っていた。

【委員】 色々な人がいる。親が大変なのを見て嫌がる子もいれば、そういうものだと思う子もいる。

【議長】 受取手の問題もあると思う。しかし楽しくやるのが大事なことはないかと思う。みなさんから出た話から、どこに焦点を当てるか考えていきたい。子ども、担い手の希薄、活動のしやすさ、人のつながり、地域愛、色々な話が出ていたと思う。どのようにまとめていくか、考えていきたい。

3 その他

・各会議への参加報告

特になし